

はじめに

古くから親しまれている日本昔ばなしには、「人としてどう生きていくべきか」という日本の道徳に裏付けされた話が多く、子どもたちが「人のやさしさや思いやり、生きていく上での知恵」を学ぶための優れた教材といえます。

また、古くから使われている言葉や、日本語独特の言い回しやオノマトペを楽しむことができ、言語の習得に大きな役割を果たしています。

日本人が語り継いできた物語を英語で読み・聞くことは、英語の学習においても、高い学習効果が期待できます。多様化する英語学習の場で、この『英語で読む・聞く 日本昔ばなし』シリーズは、英語の高い語彙力と英語による豊かな表現力を身につける一助になると考えています。

特 徴

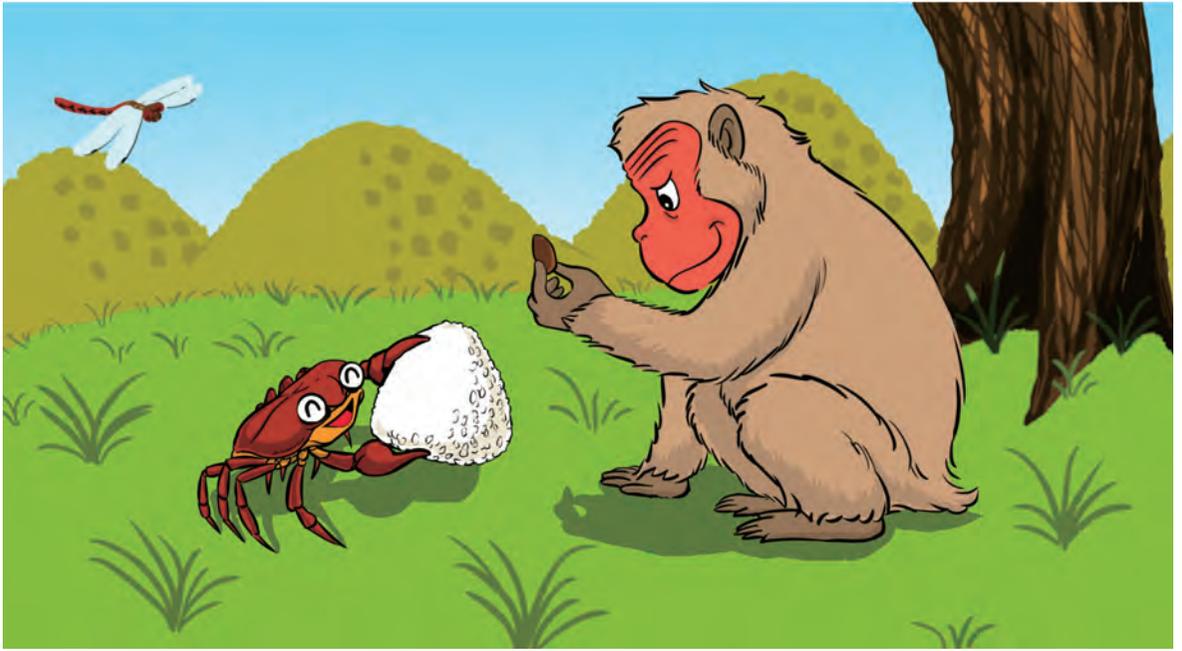
日本語の本文の下に、英訳文があります。難しい英単語も、だれもが知っている物語の内容から推察できる構成となっています。聞いたことがある、知っている英単語に気づき、古くから使われている言葉や、日本語独特の言い回しやオノマトペが、英語でどのように表現されているか、言葉（英語）を習得する楽しさを実感し、高い語彙力と豊かな表現力を無理なく身につけることができます。

日本語、英語、中国語のネイティブスピーカーによる朗読を聞くことができます。



むかしむかし、サルが柿^{かき}のたねをひろいました。そこへ、おいしそうなおにぎりをもったカニがやってきました。

Once upon a time, a monkey picked up a persimmon seed. Then a crab came over with a yummy-looking rice ball.



サルは、カニのおにぎりがほしくなり、カニにこ
ういいました。「この柿^{かき}のたねとそのおにぎりをこ
うかんしないか、このたねをまけば、毎年^{まいとし}おいしい
柿^{かき}の実^みがなるよ。」カニは「ありがとう」といい、
よろこんで家^{いえ}に帰^{かえ}り、そのたねを庭^{にわ}にまきました。

The monkey wanted the crab's rice ball, so he said to the crab, "Why don't you give me that rice ball and I will give you that seed? If you plant this seed, the tree that grows will give you fruit every year." The crab said, "Thank you." and she happily went back to her house and plant the seed in her garden.

〈英訳者紹介〉

池田 梓

横浜市生まれ、名古屋市育ち。

金城学院大学文学部英文学科（北米先住民文学専攻）卒業。在学中から一般書・学習参考書の編集・校正にたずさわる。

セブ島にて英語語学留学。その後同島にて、日本料理店のマネージャーとして勤務。この間に大学教授などと知り合い、論文やホームページ等の翻訳業務を任される。帰国後、日本語教師資格取得。

現在はフリーランスで編集・校正者、翻訳家として、英語の学習参考書や脳トレパズル本、教養本などの執筆にたずさわる。「中学生の語彙力アップ1700」「名古屋の酒場」（リベラル社）等。

William R. Lozon

カナダ、オンタリオ州生まれ。Windsor University で経営学を専攻。

10代の頃から日本文化や歴史に興味を持ち、現在も日本語を勉強中。プロのギタリストや、電気技師・レストランのマネージャーなどを経験。現在は物流会社に勤務し、輸出入部門を担当。英語教師資格を取得し、オンラインにて英語講師もつとめる。

〈作画者紹介〉

マツモトヨルタ

栃木県出身。幼少の頃から絵や工作に熱中し、現在、東京学芸大学教育学部に在学し、美術と教育について学んでいる。

大学のサークルでは、絵本や漫画、所属研究室では、張り子のお面から映像作品を制作。オリジナルイラストのステッカーや缶バッジのデザインなど、幅広い分野で活動中。